

1. 名称：泌尿器科後期臨床研修プログラム

2. 一般目標

社団法人 日本泌尿器科学会専門医制度に必要とされる各種尿路疾患、後腹膜疾患、副腎内分泌疾患、腎不全に関連する鑑別診断について理解し、泌尿器科診療手技を実践する能力を習得する。

3. 行動目標

- 1) 排尿障害の鑑別診断、治療
- 2) 導尿法、膀胱瘻、腎不全症例の救急処置、栄養管理
- 3) 尿路内視鏡の適応と実践
- 4) 内視鏡外科の適応と実践
- 5) 副腎疾患、精巣疾患の鑑別診断と治療
- 6) 腎不全外科、腹膜透析の管理
- 7) 腎移植での免疫抑制療法の理解

4. 研修期間：4年間

5. 取得可能な資格：日本泌尿器科学会専門医

6. 研修内容

- 1) 入院患者に十分な医療面接を行い、入院治療計画を作成する。
- 2) 理学的所見、胸腹部診察、内診、直腸診などを単独で行う。
- 3) 検査：膀胱鏡検査、逆行性腎盂造影、経直腸的前立腺超音波検査を単独で行う。
- 4) 血管穿刺と採血・注射
- 5) 導尿：尿閉症例を始め、尿道カテーテル留置操作を単独で行う。
- 6) 創傷処置、包帯交換
- 7) 手術手技：第一年次から第四年次に至るまで経験に応じた手術手技を主治医の下に習得する。以下に大まかなガイドラインを示す。

病棟医一年次 膀胱鏡検査、逆行性腎盂造影、ESWL、精巣摘除術、膀胱瘻

病棟医二年次 TUR-P 第一段、TUR-Bt、尿管ステント手技、腎瘻造設術、
精巣固定術、単純腎摘除術

病棟医三年次 TUR-P 第二段、TUL、根治的腎摘除術、腎尿管全摘除術、
骨盤リンパ節廓清、腹腔鏡下手術助手

病棟医四年次 副腎摘除術、腎盂形成術、膀胱全摘除術、回腸導管造設、
尿管膀胱新吻合術、腹腔鏡下手術

7. 研修責任者：泌尿器科医長 藤田哲夫（日本泌尿器科学会専門医）

8. 評価方法

研修態度、研修意欲、達成度、教育・研究に対する熱意などを 5 段階評価し、この第一段評価をもとに、面接により第二段評価を行う。

9. プログラム終了の認定

年度ごとの口頭試験をもって認定するが、第四年次の専門医資格を取得することが望ましい。

10. その他

当院において経験不可能な腎不全外科や腎移植に関しては、北里大学病院へ出向し経験することを検討する。